

通訳案内士試験

第1次邦文試験受験対策

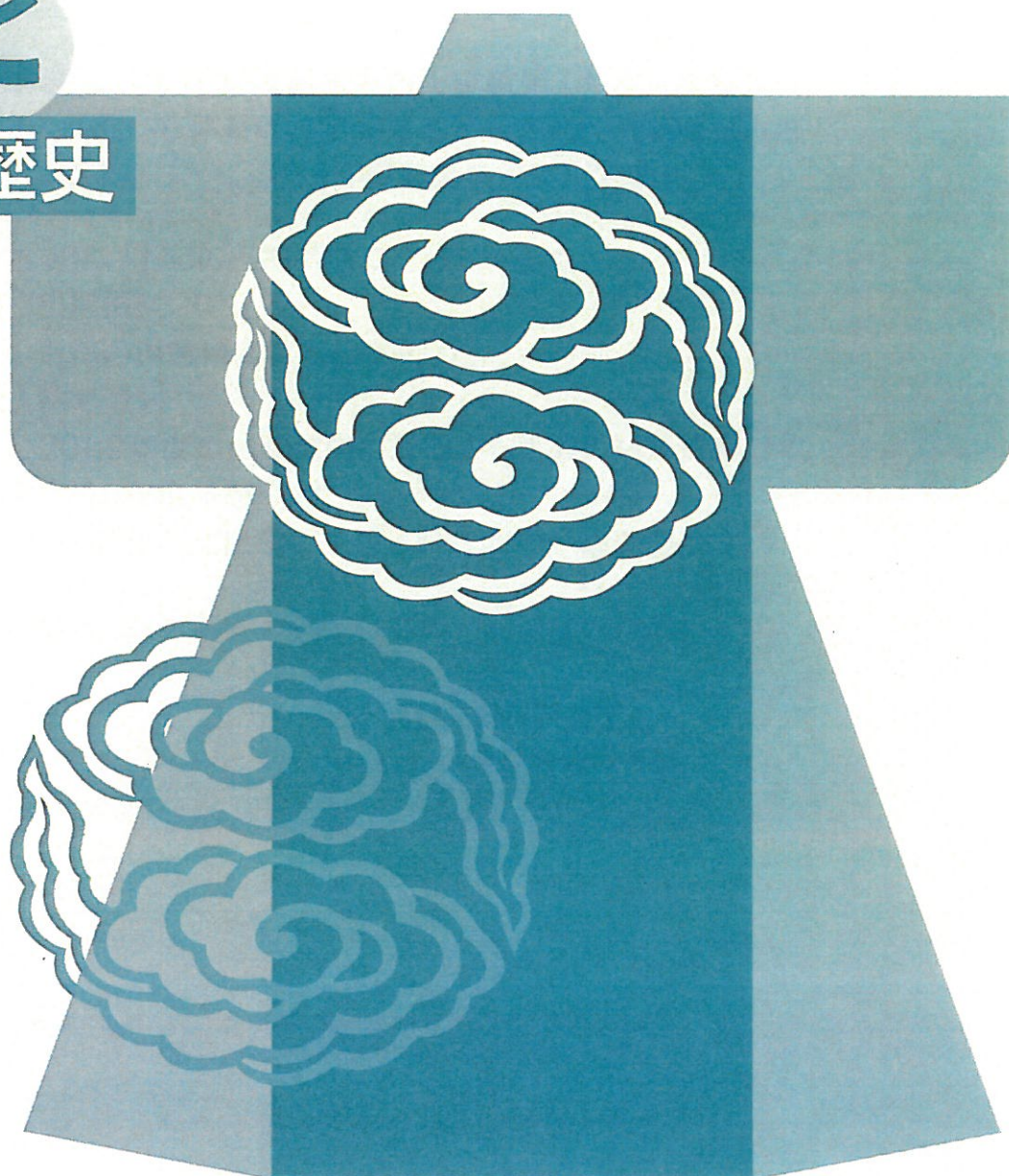
基礎から体系的に学ぶ

マラソンセミナー~

2010年受験用テキスト 出題傾向+補足資料+2010年度予想問題



日本歴史



ハロー通訳アカデミー

受験対策指導部

【1】 ガイドライン

[日本歴史についての全国通訳案内士試験ガイドライン(2020年度)]

(1) 試験方法

- ・試験は、外国人観光旅客が多く訪れている又は外国人観光旅客の評価が高い観光資源に関連する日本歴史についての主要な事柄及び現在の日本人の生活、文化、価値観等につながるような日本歴史についての主要な事柄(日本と世界との関わりを含む。)のうち、外国人観光旅客の関心の強いものについての基礎的な知識を問うものとする。
- ・試験の方式は、多肢選択式(マークシート方式)とする。
- ・試験時間は、40 分とする。
- ・試験の満点は、100 点とする。
- ・問題の数は、40 問程度とする。
- ・内容は、地図や写真を使った問題も含まれるものとする

(2) 合否判定

合否判定は、原則として **70 点**を合格基準点として行う。

[3] 過去3年間の出題内容

	2009	2008	2007
文化	◆文化と関連人物(東山文化—池坊専慶) ◆文学者・文学作品(「万葉集」／「懷風藻」／「方丈記」／「みだれ髪」／樋口一葉／吉田兼好) ◆美術作品・建築(螺鈿紫檀五弦琵琶／秋冬山水図—雪舟／風神雷神図屏風—俵屋宗達／広隆寺半跏思惟像—京都府／東照宮陽明門—栃木県／中尊寺金色堂—岩手県／菅原道真を祭神とする社—太宰府天満宮／唐招提寺／金閣—寝殿造) ◆甘藷の栽培を広めた人物(青木昆陽)	◆文化財と関連人物など(興福寺仏頭—蘇我石川麻呂／鷹見泉石像—渡辺崋山／瓢鮎図—如拙／西本願寺飛雲閣—豊臣秀吉／上賀茂神社—京都府) ◆人物(藤原行成／無学祖元／村田珠光／鈴木春信／中江兆民／正岡子規) ◆著作(「顕戒論」—最澄／「金槐和歌集」—源実朝／「神皇正統記」—北畠親房／「国性爺合戦」—近松門左衛門／「一握の砂」—石川啄木) ◆宣教師(ガスパル・ヴィレラ) ◆時宗総本山(清浄光寺—神奈川県)	◆文化財と関連人物など(救世観音像—厩戸皇子／東海道五十三次—安藤(歌川)広重／湖畔—黒田清輝／慈照寺銀閣—足利義政／三仏寺投入堂—鳥取県) ◆文化財と都道府県(稲荷山古墳—埼玉県／鳴滝塾—長崎県／永平寺—福井県) ◆人物(雨森芳洲／平塚らいてう／高山右近／酒井田柿右衛門) ◆著作(「入唐求法巡礼行記」／「愚管抄」／「海国兵談」／「おらが春」／「白樺」) ◆明治時代の教育者と大学 ◆伽藍配置(「薬師寺式」)
政治・外交	◆戦い・事件(島原の乱—長崎県／モリソン号事件—神奈川県／坂下門外の変—東京都／池田屋事件—京都府／大津事件—滋賀県／元寇の際の元軍の進路) ◆使節(少年使節—大村純忠／伊達政宗—支倉常長／岩倉使節団—津田梅子) ◆国際条約と内閣(ワシントン海軍軍縮条約／加藤高明内閣) ◆江戸時代の鎖国政策(日米和親条約／徳川慶喜) ◆戦国大名とその領国(今川義元／越前)	◆平安時代・鎌倉時代・室町時代の政変と排斥された人物 ◆江戸時代の藩名と藩校 ◆近代の条約とその首席全権 ◆江戸幕府の直轄領(天領) ◆江戸幕府の役職(京都守護職) ◆岩倉使節団に加わらなかった人物(西郷隆盛) ◆藩政改革(野中兼山—高知県) ◆天正遣欧使節(有馬晴信—長崎県) ◆不平士族の反乱(萩の乱—山口県)	◆米騒動と富山の女房たち ◆人物(北条時宗／懷良親王—征西府の将軍) ◆政策(聖武天皇—国分寺建立／徳川綱吉—生類憐みの令) ◆管領に就いた守護大名(斯波氏) ◆GHQ「五大改革指令」 ◆戦国大名と城下町 ◆ロンドン(海軍軍縮会議が開かれた場所で、統帥権干犯問題を引き起こす)
その他	◆二条河原落書が掲げられた場所(二条大橋) ◆ラジオ放送開始 ◆日本最初の日刊紙(横浜毎日新聞)	◆江戸幕府の経済基盤(天領) ◆松川事件—福島県	◆幕末の貿易の中心港(横浜) ◆江戸時代の五街道

【4】本書および講義の特長

1. 近年、よく出題される重要分野は「政治史」である。「政治史」は、独習では理解しにくいところが多いので、そうした部分を因果関係を明確にしつつ解説していく。歴史の流れを理解することがまず大切なので、編年体によって記述した。近年、歴史上の重要人物の事績に関する問題がよく出題されているので、歴史上の重要人物の事績を紀伝体によって記述して対策とした。実際の講義ではエピソードを交えつつ説明し、興味が出るように物語仕立てにし、イメージを浮かびやすくし、理解と記憶の定着の助けとしたい。
2. 上記の目標を達成するために、2009年度版テキストに加えて、＜マラソンセミナー 2010年受験用テキスト 日本歴史＞を要領よく使用していく。昨年は本試験の 95%がマラソンのテキストに載っていたが、今年も講義内容から多数出題されることが予想できる。
3. 「文化史」は、近年、全体の 50%程度出題されており、「政治史」と並ぶ最重要ジャンルであるので、次のような「文化史」対策を施した。
 - (1) 付録を「日本史年表」と「文化史のまとめ」の二本立てにし、「日本史年表」では「政治、経済、外交史」を、「文化史のまとめ」では「文化史」を、それぞれ系統的にまとめて理解し易くした。
 - (2) 各時代の通史の後に、その時代の「文化史」の詳しい解説を加えたので、「政治・外交史」と関連づけて「文化史」を学べるようにした。
4. 2006 年度以降、毎年、「地図や写真を使った問題」が 40%出題されているが、写真については、「文化史」関連を中心として、重要写真 80 葉が掲載されている。予想問題は 2009 年度版テキストの 165 問に加えて＜マラソンセミナー 2010 年受験用テキスト 日本歴史＞に新たに 40 問を載せ、ズバリ的中を目指す。
5. 覚えておくべき重要事項は、「太文字」と「太文字かつ下線」の二種類で重要度表示し、メリハリをもって「重要事項重点学習」ができるようにした。

【2】授業進度表

第 1 回	傾向と対策 政治・外交史(弥生時代以前～建武の新政)／文化史(飛鳥文化～鎌倉文化)
第 2 回	政治・外交史(室町時代～江戸時代後期) 文化史(室町文化～安土桃山文化)
第 3 回	政治・外交史(江戸時代末期～昭和時代前期) 文化史(寛永期文化～化政文化)
第 4 回	政治・外交史(昭和時代前期～昭和時代後期)／文化史(明治・大正・昭和前期の文化) 予想問題(文化史・政治史)

【3】使用テキスト

「マラソンセミナー日本歴史」テキスト(ハロー通訳アカデミー)

「マラソンセミナー2010 年受験用テキスト 日本歴史」(ハロー通訳アカデミー)

【4】参考図書

1. 「新詳日本史」(浜島書店)
2. 「詳説日本史 B」(山川出版)
3. 「ビジュアルワイド図説日本史」(東京書籍)
4. 「角川新版日本史辞典」(角川書店)

【5】 補足資料

【6】 弥生時代

- 『漢書』地理志……「それ楽浪海中に倭人あり、分れて百余国となる。歳時を以て来り献見すと云う。」紀元前1世紀頃、倭は小国に分立していた。
- 『後漢書』東夷伝……倭奴国王が 57 年、後漢の光武帝から印綬を受領したと書いてある。『漢委奴国王印』。倭国は中国に朝貢していたことがわかる。
- 『魏志』倭人伝……邪馬台国女王卑弥呼は 239 年に魏に朝貢し、『親魏倭王』の金印と銅鏡 100 枚を賜った。「三角縁神獣鏡」は卑弥呼の賜った銅鏡である、と云われている。この頃、邪馬台国を中心に日本がまとまり始めていることがわかる。邪馬台国は大和王権の元になったと云われている。「魏志倭人伝」には、卑弥呼の宮殿があった邪馬台国の都について、つぎのような記述がある。「宮室・楼観(高殿)・城柵をおごそかに設け、いつも人がおり、兵器を持って守衛する」

【7】 古墳時代

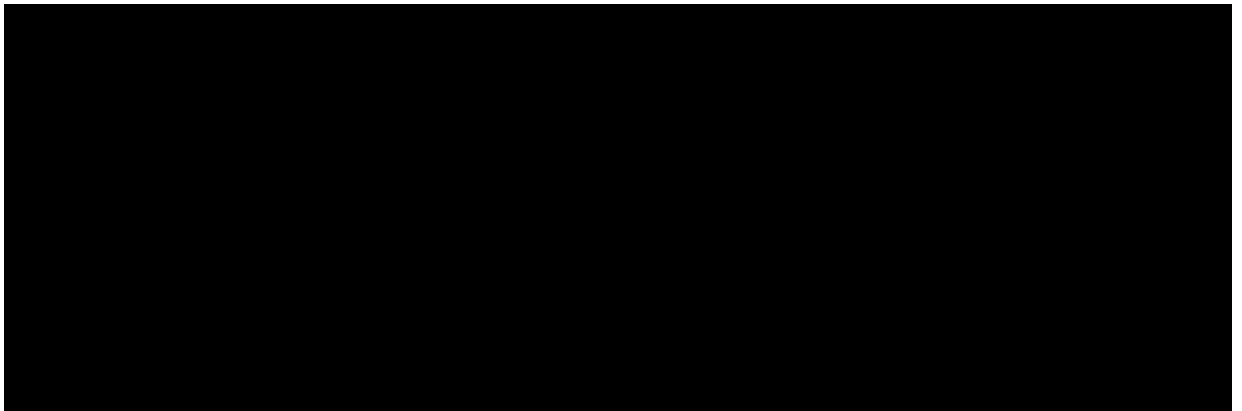
- 高句麗好太王碑……「お父さんは偉い人なんだ。391 年に日本が攻めてきた時に日本軍を倒したんだ。」→4世紀後半には日本は西日本を中心に統一国家であったことがわかる。
- 『宋書』倭国伝……5世紀に入ると「倭の五王」があいついで南宋に朝貢した。478 年倭王武が宋(五胡十六国)に使者を送り、安東大將軍に任命された。倭王武は雄略天皇であると言われる。雄略天皇の本名はワカタケルであるが、埼玉の^{いなりやま}稲荷山古墳から出土された鉄剣銘と熊本の江田船山古墳から出土した鉄刀銘にはともに、ワカタケル大王云々と刻まれている。倭王武、即ちワカタケルは、すでにこの時代に関東から九州までを勢力範囲とする大きな国家を樹立していたことがわかる。
- ^{はしはか}箸墓古墳……奈良県桜井市箸中にある3世紀中頃に造られた前期の古墳のなかでも最古級と考えられる。墳長 278 メートルの大型前方後円墳であり、築造時期や大きさなどから、卑弥呼の墓ではないか、と考えられている。
- ^{まきむく}纏向遺跡……奈良県桜井市東田にある遺跡で 200 年頃のものと考えられる。各建築物の中心軸が一直線になっており、宮殿建築の特徴を持つ。卑弥呼のような有力な呪術者、祭祀者が住んでいた宮殿があったと考えられる。
- 吉野ヶ里遺跡……佐賀県神埼町・三田川町にある遺跡で、200 年頃のものと考えられる。『倭人伝』にある『宮室』に相当するといわれる「主祭殿」、『倭人伝』にある『高殿(楼観)』に相当するといわれる「物見櫓」が再現されている。また、集落の周りには深さ2メートルの濠が掘られており、その内部には城柵が張り巡らされていた。
- 大仙陵古墳 [仁徳天皇陵] ……5世紀に造られた巨大な前方後円墳であり、中期古墳の代表。墳長は 486 メートルで世界一大きな墓であり、大阪府にある。

- ❑ **高松塚古墳**……646 年の大化の薄葬令以降造られた後期古墳の代表。奈良県明日香村にあり、壁画が描かれた装飾古墳である。壁面に四神や男女群像が描かれており、天井には星宿(星座)が描かれている。
- ❑ **キトラ古墳**……646 年の大化の薄葬令以降造られた後期装飾古墳の代表。奈良県明日香村にあり、壁面に四神図や精緻な天文図が描かれている。

【12】 平安時代

- ❑ **藤原種継**……737～785。藤原宇合(式家)の孫。長岡京造営を主導し長岡京への遷都を強行したが、785 年現地で監督中射殺される。この結果、暗殺にかかわったとして早良親王(桓武天皇の弟)は皇太子を廃され、淡路に配流される途中で餓死した。また、大伴・佐伯の旧豪族が多数処刑された。
- ❑ **平安京遷都**……794 年、桓武天皇が和気清麻呂の献言で長岡京(784～794)より遷都し、平安時代が始まる。天皇は遷都によって仏教政治の弊害を断とうとした。
- ❑ **桓武天皇**……737～806。平安京遷都・勘解由使(国司交替の際の事務手続きを厳しく監督する)・健児の制(軍団・兵士の廃止に伴い、郡司の子弟や有力農民の子弟で弓馬の巧みな者を 60 日交替で国府の警備や国内の治安維持にあたらせる)実施のほか、坂上田村麻呂に蝦夷討伐を行わせ、最澄の天台宗を新仏教として支援するなど、政治刷新を実施。

◆ 藤原氏系図



- ❑ **薬子の変**……810 年、平城京遷都を主張する平城太上天皇や藤原薬子(式家)と、平城の弟の嵯峨天皇が対立して二所朝廷と呼ばれる混乱が発生したが、嵯峨天皇側が迅速に兵を出して勝利した政変。上皇は出家し、薬子は自殺した。
- ❑ **藤原冬嗣**……775～826。平安初期の公卿。嵯峨天皇の信任あつく、蔵人所(810 年の薬子の変の際、平城上皇側に漏れることなく嵯峨天皇の命令を太政官組織に伝えるための役所)設置とともに、蔵人頭となる。これによって藤原北家が台頭することになる。二男良房は人臣最初の摂政となる。
- ❑ **承和の変**……842 年 7 月 15 日嵯峨上皇が没した混乱に乗じ、その 2 日後、皇太子恒貞親王の側近である伴健岑、橘逸勢(三筆の 1 人)らが皇太子を奉じて東国に赴き反乱を企てているとして逮捕され、無実の恒貞親王が皇太子を廃された。首謀者として伴健岑は隠岐に、橘逸勢は伊豆に配流されるなど多数が処罰された。8 月 4 日、藤原良房の甥で道康親王(のちの文徳天皇)が皇太子

となった。逸勢は8月13日、伊豆へ向かう途中死亡した。逸勢の死後橘氏は急速に衰微した。

- **摂政**……天皇に代わって政務全般を行う官職。本来天皇が幼少・病弱・女帝などの場合、皇族がその任についた。593年聖徳太子が推古天皇の摂政になったのが最初。臣下では、858年即位した清和天皇が幼少のため外祖父の藤原良房がその任についたのが初めてである。10世紀後半からは常置の官になり、藤原北家(特に初代摂政良房の子孫)が独占した。
- **関白**……「関り白す」の意味からできた言葉。朝廷の中で、すべての書類を天皇が見る前に見ておくことが、その仕事である。実質的には摂政と変わりなく、天皇成人後に政務を担当する場合にいう。884年光孝天皇即位に際し、藤原基経(良房の兄の子で良房の養子)がその任についたのに始まる。「関白」の称は887年に宇多天皇が基経に下した詔に初見。
- **応天門の変**……宮中にあった応天門が866年に炎上した事件。はじめ左大臣源信に放火の疑いがかかったが、大納言伴善男が源信を失脚させるために子に命じて火を放ったとして告発され、善男父子らが流罪となった。背後には藤原良房の工作があったと考えられ、いわば良房によって罪を免れた源信はこれによって、もはや良房の正式な摂政就任に反対でなくなった。そして同年良房の摂政を命じる詔が出ている。
- **阿衡の紛議**……887年に即位した宇多天皇は、太政大臣藤原基経を関白として先代の光孝天皇と同様に政務を一任しようとした。基経は当時の慣例に従い辞退したが、それに対して橘広相が起草した勅書に「よろしく阿衡の任をもって卿の任となすべし」とあった。「阿衡」とは位のみで職掌がないとして、基経は以後出仕するのをやめた。この事件を「阿衡の紛議」という。事件は翌年宇多天皇が妥協して勅書を改訂し、重ねて基経を関白とすることで一応の收拾をみた。基経は天皇の信任の厚かった橘広相の影響力の低下を狙うとともに、外戚関係のない宇多天皇に対して、自らの関白としての政治的立場を再確認させる意図があったことは想像に難くない。なお事件は888年、基経の娘温子を宇多天皇の皇后として入内させることで最終的に決着した。
- **昌泰の変**……醍醐天皇(延喜の治)の時に右大臣にまで昇っていた菅原道真が、道真の娘婿で醍醐天皇の弟を、天皇を廃して擁立しようとした嫌疑(藤原時平のでっちあげ)で901年太宰府に流された事件。
- **改革前の菅原道真**……33歳で道真は文章博士に任じられていたが、42歳の時に文章博士を解任され、国司として讃岐国(今の香川県)に赴く辞令が下った。着任した讃岐は干ばつにより土地が荒れ、多数の家族が命を失い、多くの人たちがよその土地へ逃げ出していた。そのような窮乏の中でやっとの思いで讃岐の民が税として都に送った絹の品質が悪いという非難を受けたが、そのことにより、国の政治のあり方に道真は疑問を持ち始めた。政治の実権を握っていた関白藤原基経に対し、その非難を咎める書状を送ったが、その気骨ある行為が国の乱れを憂いていた宇多天皇の目に留まった。道真は宇多天皇に召し出されて、天皇に仕えることを命じられた。891年に基経が病死し、道真は蔵人頭(天皇の秘書官長にあたる)に抜擢され、次々と要職を歴任、出世をとげた。
- **菅原道真の志した改革**……当時、土地は全て国のものとされ、成年男子ひとりに国がその土

地を貸し与え、作物を育てるという建前になっていた。地方の豪族は、国に土地をとられるくらいであれば、私有地を認められた有力な貴族や寺院に寄進し、名義料を納めて、有力貴族や寺院を領家や本家とし、自らは荘官となって実質的には自分の土地として経営することを考えた（寄進地系荘園の増加）。このことにより、税をとれる土地が激減した。また、当時の税は、戸籍に登録された成年男子だけに課せられていたので、税をのがれるために、戸籍に記載されている性別はほとんどが女性のみになっていた（偽籍）。そこで、道真^{みちざね}は寄進をやめさせて、人に税を課すのではなくて土地に税を課そうとした。また、894年には道真^{みちざね}の建議によって遣唐使も廃止された。更に、道真は税を納めていない者を摘発する検税使の派遣を廃止し、民衆の暮らしぶりを調べ、全国の土地の現状を調査させる問民苦使^{もみくし}を派遣し、中央の貴族と地方の豪族が私利私欲のために結託し、民衆の田畑を奪いつつあるという実態を把握した。

- 菅原道真^{みちざね}の左遷まで……897年、宇多天皇は位を息子の醍醐天皇に譲った。899年、菅原道真^{みちざね}は右大臣に任じられ、基経の子藤原時平は左大臣に任じられた。899年、宇多上皇が出家して法皇となり、政治の舞台から身を引いたが、その後すぐに、後ろ盾を失った道真に右大臣辞任を勧める書状が届いた。901年、道真をのぞく主要な貴族全員に御所に集合せよとの命が出された。集まった貴族を前に時平は「道真^{みちざね}は権力をほしいままにし、天皇を退けようと企てた。ただちに道真^{みちざね}の右大臣の職を解き、九州太宰府に転勤を命じる」という天皇の命令を読み上げさせた。この命令書は時平がつくらせたものであり、根も葉もない濡れ衣であった。自宅でその知らせを聞いた道真^{みちざね}は考えた。「ここで自分が抗議をすれば醜い権力闘争が起き、改革は棚上げとなってしまふ。これは我が意に非ず。すでに未来への道筋はしっかりと引いている。時平といえども改革の道の逆戻りはできない。あとはその道を行くのは私ではなくて時平であつてもいっこうに構わない」道真は自宅からの去り際、歌を詠んだ。

東風吹かば においおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春を忘るな

自分は志半ばに都を去るが、日本の改革だけは私がいなくても進めてほしい……。そういう願いを込めた歌であった。901年1月25日、右大臣菅原道真^{みちざね}は太宰権帥へと左遷された。

- 菅原道真^{みちざね}の左遷後……藤原時平は道真の計画していた政策を実行した。全国で土地調査を行い、豪族の私的な土地所有を禁じて、土地は改めて民衆に貸し与え、税は土地に応じて取り立てた。それはまさに道真の作った青写真通りの道であった。これは、醍醐天皇^{えんぎ}の延喜の治の一環として行われた「延喜の荘園整理令」と言われる。
- 菅原道真^{みちざね}の死後……菅原道真の死後、京の都では天変地異が相次ぎ、魑魅魍魎の群れが出没し、貴族を悩ました。道真追放の張本人藤原時平は39歳の若さで世を去った。蛇に化身した道真に取り憑かれたためとも伝えられる。藤原氏は道真の怨霊を鎮めるために躍起となって北野天満宮の社殿を増築した。「功績や名が石の柱に刻まれて残らずとも日本の改革が成れば、それでよいのだ」とも道真は思っていた。その決意の中で改革半ばにして排斥された菅原道真。それから1100年後、かつて怨霊として恐れられた道真は、人々に幸せをもたらす神へと姿を変えた。今なお絶大な信仰を集めている天神菅原道真。無理矢理石の柱に名を刻んだ藤原時平の名よりもはるかに深く、菅原道真の名は人々の心に刻まれている。

- **延喜の治**……10 世紀前半の醍醐天皇の政治。醍醐天皇は父宇多天皇の遺志を継いで、天皇親政を実施した。後世に天皇政治の理想とされ、年号をとって延喜の治と呼ばれた。
- **延喜の荘園整理令**……荘園の縮小と新立荘園の禁止を目指して(菅原道真が敷いたルールにのせて)藤原時平が出した荘園整理令であったが、財産の正当性を示す証拠書類である券契が明白であり、国務を妨げない荘園は認めたので不徹底であった。
- **承平・天慶の乱**……935～941 年。平将門、並びに藤原純友の乱。935 年、武力によって下総をまとめた将門は、数年後に国司を追放し、関東一帯を占拠した。939 年、藤原純友は瀬戸内海西部の海賊を率いて反乱を起こし、太宰府にも侵入した。
- **挙兵前の平将門**……935 年、父の遺領問題で伯父国香と争い、国香を死にいたらしめ下総(茨城県南部・千葉県北部・東京都東部)をまとめた。937 年 11 月に富士山が爆発し、各地は凶作と大飢饉に見舞われ、餓死者が頻出した。東国の国司達は重税を例年通りに取ろうとするなか、税が払えず領地から逃げ出す農民が続出し、下総の豪族平将門のもとに土地を捨てた人々が救いを求めて集まってきた。常陸(茨城県)の豪族である藤原玄明が一族郎党を引き連れ、下総の将門のもとに逃げ込んできた。常陸の国司は「玄明の身柄を捕らえ、すみやかに引き渡すように」と書状を送りつけてきた。
- **平将門の挙兵から藤原純友の乱まで**……939 年、将門は自ら 1,000 の兵を率いて挙兵し、常陸国に向けて進軍した。玄明を守り、国司・朝廷との対決を決意したのであった。常陸の国司は 3,000 の兵で迎え撃つが、最新鋭の刀で武装した将門の騎馬軍団は3倍もの敵兵を撃破した。常陸の国司を捕らえ、国の印と鍵を奪い、東国に独立政権を作ろうとした。12 月 11 日には下野国、15 日には上野国へと、将門は国印と鍵を奪っては国司を京に追放した。12 月 19 日、将門は自ら新しい天皇、新皇として即位した。これにより、東国は名実共に、朝廷の支配を脱した独立国となった。これに対して朝廷は全国の寺社に将門を呪い殺すための祈祷を命じ、朝廷の呼びかけに応じた寺社は、南は九州から北関東にまで広がった。また、939 年 12 月 26 日、瀬戸内海で豪族藤原純友の水軍が反乱を起こして国司を殺害した。朝廷支配に対抗する動きが広がる兆しを見せた。
- **平将門死去、東国独立政権の崩壊まで**……朝廷は、将門を殺した者は身分を問わず、貴族にすると約束する通達「太政官符」を全国に発した。東国での争いに敗れた平貞盛、下野の有力豪族、藤原秀郷が朝廷のよびかけに応じ、貴族にするという朝廷の褒美をちらつかせて兵を集めた。940 年1月、1年の収穫を左右する田起こしの季節になり、将門はそれまで一緒に戦ってきた兵を村に帰した。将門が兵を解いたことを伝え聞いた平貞盛・藤原秀郷の連合軍は、将門の本拠地、下総の石井(現在の坂東市(茨城県))に一気に兵を進めて、平将門を討ち、東国独立政権は滅んだ。
- **現代にも伝えられる将門の伝説**……坂東市(茨城県)には、将門が出陣の時に打ち鳴らした太鼓が始まりだという「神田囃子」が伝えられている。地元の人たちによって保存会が作られ、子供たちにも将門のお囃子が引き継がれている。子供達は将門について笑顔で無邪気に話す。「お百姓の味方になって戦った立派なお侍さん」「弱い人の味方の強い人」
思えば、東国の人々のために立ち上がり、志半ばにして倒れた平将門であった。

「^{しょうもん}将門記」(将門の乱の詳細を漢文で記した最初の合戦記)は、将門の悲劇を次のようにたとえている。

「その悲しみは開かんとするめでたき花がその直前にしおるるが如く 今にも光り輝かんとする月思いがけず雲間に隠れるが如し」

- ^{あんな}安和の変……969 年。左大臣^{たかあきら}源高明の娘をめとっている為平親王を皇位につけようとする一味が謀反を計画しているとの密告をきっかけに源高明が太宰府に流された事件。この事件は藤原氏による他氏排斥の最後とみなされ、この事件以降、藤原氏の勢力は不動のものとなり、**摂政・関白**が常置されるようになった。摂政・関白を出す家を摂関家(藤原北家)と呼んだ。
- **摂関政治**……10～11 世紀、平安中期、藤原氏が外戚として摂政・関白を独占し国政を左右した政治。11 世紀前半の^{みちなが}藤原道長・^{よりみち}頼通父子が全盛期。その間、地方政治は乱れた。摂関政治では天皇に力はなく、その下の位の藤原氏が実権を握った。これは日本社会でたびたび現れる権力の二重構造である。
- ^{みちなが}藤原道長……966～1027。藤原兼家の子。995 年内覧(関白に準じる地位)となる。2人の娘を一条天皇・三条天皇の後とし、孫の後一条天皇(一条天皇と娘彰子の子)・^{ごすざく}後朱雀天皇(一条天皇と娘彰子の子)にも更に2人の娘を後とするとともに^{がいそふ}外祖父として権勢を振るい、更に曾孫の^{ごれい}後冷泉天皇(後朱雀天皇と娘嬉子の子)の^{がいそふ}外祖父として権勢を振るう。1016 年摂政、1017 年太政大臣となり藤原氏の全盛期を現出。娘の威子が後一条天皇の皇后になる日に道長が即席で詠んだ歌「此の世をば我が世とぞ思ふ望月の、かけたる事も無しと思へば」は愚作ではあるが有名である。
- ^{よりみち}藤原頼通……992～1074。道長の子。後一条・後朱雀・^{ごれいぜい}後冷泉3 代の摂政・関白となる。**平等院鳳凰堂**(京都府宇治市)を建て、「宇治殿」といわれた。1067 年隠退。道長以来約 60 年間は摂関政治の最盛期。
- ^{しょうえん}荘園……8 世紀から 16 世紀にかけて存在した私的所有地。荘園発生の直接的契機は 723 年の^{さんぜいつしんのほう}三世一身法(元正天皇時)ではなく 743 年^{こんでんえいねん し ざいほう}墾田永年私財法[墾田永世私有法]の発布(聖武天皇時)。ピリオドを打ったのは豊臣秀吉の^{たいこう}太閤検地である。
- ^{しょうえん}荘園整理令……荘園増加の防止・縮小のため出した法令。902 年の醍醐天皇による^{えんぎ}「延喜の荘園整理令」と、1069 年の後三条天皇による^{えんきゅう}「延久の荘園整理令」が有名。しかし、前者はかえって摂関家(藤原良房の子孫)に荘園を集中させることになり、後者はかなりの成果を上げたものの、結局、荘園が天皇・院に集中する結果になった。
- **後三条天皇**……1034～73。藤原氏と外戚関係がなく藤原氏にはばかりことなく親政を行う。1069 年^{えんきゅう}延久の荘園整理令を出し^{きろくしょうえんけんけいじょ}記録荘園券契所(「記録所」とも)を設ける。摂関家の荘園も例外ではなく、この整理令はかなりの成果をあげた。この結果、摂関家の権勢も衰えを見せ始める。
- ^{えんきゅう}延久の荘園整理令……1069 年に発令。1045 年以降の新立荘園を廃止した。それ以前のものも根拠なく国務を妨げる荘園を整理した。藤原氏の荘園も一部を廃止して国に税金を払わなければならない公地にした。
- ^{きろくしょうえんけんけいじょ}記録荘園券契所……^{えんきゅう}延久の荘園整理令を厳しく実施するために太政官にうけた役所。職員には反摂関家の立場にある学者を起用。摂関家^{えんきゅう}藤原頼通の荘園も一部整理することを決定した。

- ^{ぜんくねん}前九年の役……1051～62。陸奥の土豪安倍頼時が国司に反抗した。そこで朝廷は源頼義、^{よしえ}義家親子に安倍頼時を討つように命じた。源頼義、^{よしえ}義家は清原氏の援助を受けて陸奥を平定した。源氏の東国における勢力確立のきっかけとなる。
- ^{ごさんねん}後三年の役……1083～87年。奥羽地方で勢力をふるっていた清原氏の相続争いに陸奥守として赴任した ^{みなもとのよしえ}源 義家が介入、^{きよひら}藤原清衡(もと清原清衡)を助けて清原氏を滅ぼす。この戦いは朝廷から私闘と見なされ、^{よしえ}義家に対して恩賞が与えられなかったため、^{よしえ}義家は自腹で配下に恩賞を与えた。^{よしえ}義家のこの態度が東国武士団との主従関係を強め、源氏の信望が東国に高まり武家の棟梁の地位を確立するに至った。また、^{きよひら}藤原清衡は奥州藤原氏の祖となる。
- **院政**……後三条天皇の死後、その遺志を受け継いで親政を行ったその子白河天皇は 1086 年、わずか 8 歳の皇太子(堀河天皇)に位を譲り、自らは上皇として政治の実権を握った。これが「**院政**」の始まりである。上皇の命令を伝える「**院宣**」は次第に天皇の「**詔勅**」よりも権威を持つようになった。院の警備には「北面の武士」(上皇の御所の北面にいた)が選ばれた。院政は、白河・鳥羽・後白河の 3 上皇の間、100 余年続き、藤原氏の摂関政治に終止符を打つことになった。院政も実権は天皇にではなく、上皇にあるので、権力の二重構造である。
- **後白河天皇**……1127～92。1155 年に即位したが、これが翌年の^{ほうげん}保元の乱の原因となった(鳥羽法皇は崇徳天皇に譲位を迫る際、近衛天皇の次は崇徳の子重仁親王を即位させると約束していたが、法皇は約束を破って、崇徳の子ではなくて、後白河を天皇として即位させた)。後白河天皇は 1158 年、二条天皇に譲位し、以後、上皇として二条・六条・高倉・安德・後鳥羽の 5 代 34 年にわたって院政を行った(高倉天皇の時代には出家して法皇となった)。源平の争乱、鎌倉幕府の成立など激動期にあつて、貴族勢力維持のため武家勢力と対抗。1169 年法皇となり、造寺・造仏を盛んに行い、^{いまよう}今様(今でいう歌謡曲)を好んで『^{りょうじんひしやう}梁塵秘抄』を撰じた。「我等は何して老いぬらん、思へばいとこそあはれなれ、今は西方極楽の、弥陀の ^{ちかひ}誓 を念ずべし」(極楽歌)
- ^{ほうげん}保元の乱……権力を一手に握っていた父鳥羽法皇の死後、崇徳上皇と後白河天皇は後継の座を巡り対立を深めていた。1156 年、後白河天皇が命令を下し、^{よしえ}平清盛は源義朝(義家の曾孫)とともに、崇徳上皇が立て籠っていた白河殿の館を襲撃した。崇徳上皇が頼りにした源為義(義家の孫、義朝の父)らを破り、勝者となった後白河天皇方に与した清盛は、恩賞として播磨守となり、そののち太宰府の実質的な長官にも任じられた。源義朝は父為義を処刑して左馬頭になった。
- ^{へいじ}平治の乱……西国に拠点を持つ清盛率いる平氏と、東国に基盤を置く源義朝率いる源氏が激突した。1159 年 12 月 9 日夜半、源義朝が兵を率い、後白河院の御所に火が放たれた。源義朝は後白河上皇を幽閉し、16 歳になる二条天皇の身柄も確保した。清盛は降伏の文書を出し、義朝らを油断させた。12 月 26 日夜半、義朝らが陣取る御所の北の門から十二単衣をまとった二条天皇が脱出。後白河上皇も御所を脱出した。12 月 27 日、清盛が挙兵し、御所に立て籠っていた源氏の軍勢をおびき出し、本拠地六波羅で勝利した。天皇と上皇を奪われた源氏は賊軍となって敗走した。源義朝は逃走中殺され、その子頼朝は伊豆に流され、^{よしつね}義経は鞍馬の寺へ

預けられた。^{へいじ}平治の乱をおさめた清盛は、武士で初めて「^{しょうさんみ}正三位」の位を授けられ、その後も「参議」職に特進した。負けて勝つ。敵を安心させようと二条天皇を奪還し官軍となり錦旗を得た。戦いの結果、二条天皇の信任を一身に集め、次の覇権への軌道を敷いたのであった。

- **平清盛**……1118～81。平安末期の武将。平治の乱で源氏を圧倒し、藤原氏に代わって政権を掌握。その子重盛らの一族もみな高位高官に昇り、勢威は並ぶものがなくなった。1167 年太政大臣となって政権を握り、娘**徳子**(**建礼門院**)を高倉天皇の中宮に入れ、その子**安徳**天皇を皇位につけた(これは摂関家と同じ権力操縦法)。また**大輪田泊**を修築して日宋貿易を行い、^{いつくしま}**厳島神社**を尊崇した。晩年は、諸国の源氏の挙兵にあい、失意のうちに病死した。
- 「アナタコナタシケル」平清盛……若き二条天皇とその父である後白河上皇が、政治の主導権を巡って対立したが、清盛は二条天皇の強い信頼を得て、後見役として深く政治に関わっていった。その一方で天皇と対立する後白河上皇とも良い関係を保っていた。清盛は上皇のために蓮華王院(通称三十三間堂)を造営した。二条天皇、後白河上皇、二人の間でうまくたちまわる清盛の姿を『愚管抄』(慈円の歴史書)は「アナタコナタシケル」と評している。1165 年、二条天皇が 23 歳の若さで急死した。後ろ盾を失った清盛は後白河上皇に接近した。二条天皇の死後、後白河上皇は、清盛の義理の甥にあたる高倉天皇(清盛の妻時子の妹の滋子の子／後白河上皇の子)を後継者とした。清盛は1年半の間に、大納言、内大臣、更に律令制度最高位の官職である太政大臣へと駆け上がっていった。1167 年2月のことであった。
- 清盛の出家から重盛の死まで……1168 年、官位を極めた清盛が出家し、京六波羅の屋敷からも離れて、清盛は都に近い港として、摂津国福原(現在の神戸)にある**大輪田泊**の改修に着手した。島を切り開いて音戸の瀬戸を造るなど、瀬戸内海の航路整備にも力を注いだ。1177 年、反清盛を掲げる人々が京都東山の鹿ヶ谷に密かに集結した(^{ししがたに}**鹿ヶ谷の陰謀**)。後白河法皇も平氏討伐の謀議に加わったと伝えられるが、清盛は後白河上皇以外の謀議に加わった者を厳罰に処し、後白河法皇は側近を失い、孤立していった。娘徳子と高倉天皇の間に 1178 年 11 月に後の安徳天皇(清盛の孫であると同時に、後白河法皇の孫)が誕生した。誕生した皇子は清盛の孫なので、清盛は朝廷での揺るぎない発言権を確保した。1179 年、清盛の後継者に決まっていた重盛が死去した。後白河法皇は、重盛の知行国を召し上げて平家一門が相続することを認めず、更に重盛の喪中にもかかわらず遊興に耽り、平氏の体面を傷つけた。
- 後白河法皇幽閉から清盛の死去まで……1179 年 11 月清盛は挙兵し、数千の大軍とともに後白河法皇の館に向かい、法皇を捕らえ、幽閉した。1180 年1月、清盛は後白河法皇に代わり、甥で娘婿の高倉天皇を上皇にし、その皇子を安徳天皇として即位させた。1180 年6月、清盛は都を京から摂津国**福原**(現在の神戸)へと移し、そこを日宋貿易の拠点とし、**大輪田泊**を改修して日宋貿易を始めた。400 年近く続いた平安時代で初めての遷都が行われたのであった。しかし、1180 年、後白河法皇の第3皇子以仁王の令旨が発せられて、**源頼朝**らが「平氏打倒」を掲げ、東国で挙兵した。頼朝をはじめとする源氏の軍勢は各地で平氏を打ち負かし、都へ迫った。そうした中で、1181 年源氏との戦いの最中、清盛は熱病に倒れ、死去した。平氏は各地で挙兵した源氏の軍勢に土地を追われ、西へと敗走した。1185 年3月、追いつめられた平氏は長門国(現山口県)**壇ノ浦**で義

経率いる源氏と最後の戦いに臨み、敗退し滅んだ。勝敗を決したのは、熊野や瀬戸内の水軍が義経に加勢したことであった。清盛が台頭した平治の乱で真っ先にはせ参じた熊野の水軍も心変わりしたのであった。平氏は瀬戸内の海とともに力を伸ばし、最後はその海に没していった。

- **日宋貿易**……平氏が栄えた経済的基盤の一つ。894 年の遣唐使の停止以降、中国との正式な国交は途絶えていたが、九州沿岸を主要な舞台として、宋との間に私貿易が行われ、平安末期には盛んになっていた。▼**平清盛**は瀬戸内海航路を整え、**大輪田泊**(現神戸港)を修築して貿易を行った。日本からの輸出品は金・硫黄・漆器・うるしなど、輸入品は織物・書籍・香料・陶器・銅銭など。特に宋銭の輸入は、国内の貨幣経済の発達を促し、その後の社会に大きな影響を与えた。
- **平家滅亡**……平氏の権力独占に対する不満は、貴族や大寺社、地方武士の間で高まった。1180 年、清盛が高倉天皇に譲位させ2歳の孫安徳天皇を位につけると、後白河法皇の皇子^{もちひとおう}以仁王と源頼政は園城寺や興福寺の僧兵を味方に平氏打倒の兵を挙げた。それ自体は失敗したが、平氏を打倒しようとする武士が次々に立ち上がり、5年にわたって源平の争乱が続いた。1180 年、頼朝も挙兵し、三浦・千葉氏などの有力な関東武士と主従関係を結んだ。一方、従兄弟の源義仲は信濃で挙兵し、北陸諸国で急速に勢力を拡大し、平家を破り入京したが、義経に攻められ京を追われ、近江国で敗死した。さらに天才的な武将である源義経が兄頼朝の命を受けて、一の谷の合戦(兵庫県)、**屋島の合戦**(香川県)、さらに**壇ノ浦の合戦**(山口県)で連勝し、とうとう平氏は1185 年に滅亡した。その時、安徳天皇は二位の尼に抱かれて入水し、三種の神器も海中に沈んだ。

【13】 平安時代の文化

(2) 国風文化(藤原文化)

- **三蹟**……小野道風、藤原佐理、藤原行成の3人のことであり、かな、及び草書体の流麗・優美な和風の書をかいた。
- **小野道風**……スランプに陥った時に、気晴らしに雨の降る庭に散歩に出た時に、柳に飛びつこうと何度も跳ねているカエルを見た。「馬鹿なカエルだ。飛びつけるわけがないではないか」と思った。ところが風が吹いて柳の枝がしなった時にその枝に飛びつくことができたカエルを見て、「馬鹿は自分であった。飛ばなくては一生飛びつくことはできない」と悟った。それからの小野道風は一心不乱に書に打ち込んだ。その努力精進は天賦の才を超えた。才能がものを言う芸術の世界で努力によって開花させた小野道風、その一心不乱の努力は特筆に値する。
ちなみに、**藤原佐理**は、太宰府に赴く途中に書いた手紙である「**離洛帖**」で有名であるが、これは国宝に指定されている。漢字ではあるが、いかにもかな文字のように自由奔放に崩して書いている。一方、**藤原行成**は、書道の一大流派、**世尊寺流**の祖である。

【14】 鎌倉時代

- **源頼朝**……1147～99。鎌倉幕府初代将軍。平治の乱後敗走の途中捕らわれ、伊豆に配流。1180 年、以仁王^{りようじ}の令旨を受けて挙兵したが、石橋山の戦いに敗れる。1184 年、弟範頼^{のりより}、義経^{よしつね}

を大将に任じ、源義仲(1183 年7月入京、乱暴狼藉をはたらいていた)を討ち、平氏を一の谷(兵庫県)から追い落とし、1185 年、義経をして壇ノ浦に平氏を滅亡させた。同じ年、諸国に守護・地頭を設置し武家政権を確立した。1192 年、征夷大將軍に任ぜられ、幕府を創設した。

- 御家人……鎌倉時代、將軍と主従関係を結んだ武士。頼朝は主人として、御家人を主に地頭に任命することによって、先祖伝来の所領の支配を保証したり(「本領安堵」^{ほんりょうあんど})、新たな所領を与えたりした(「新恩給与」^{しんおんきゅうよ})。この「御恩」^{ごおん}に対して御家人は、戦時には軍役を、平時には京都大番役や鎌倉番役(東国の御家人に幕府を警護させる役)などを務めて、従者として「奉公」した。院政期以来、各地に開発領主として勢力を拡大してきた武士団、特に東国武士団は、こうして御家人として幕府の下に組織され、地頭に任命されることで所領を支配することを將軍から保証されたのである。
- 侍所……1180 年、鎌倉に設けられ、御家人の統率と軍事・警察の任に当たった。初代別当は後に北条氏と対立した和田義盛。1213 年、和田義盛を滅ぼした 2 代執権北条義時が侍所別当も兼務した。以後、執権北条氏が侍所別当を兼務する。
- 公文所……^{くもんじょ}1184 年、鎌倉に設けられた、鎌倉幕府の文書作成、財政を担当する機関。初代別当は守護・地頭の設置を献策した公家出身の政治家大江広元。1190 年、政所と改称された。1203 年、比企能員の乱の年に初代執権北条時政が政所別当を兼務し、1205 年に 2 代執権北条義時が政所別当も兼務してからは、執権北条氏が政所別当を兼務する。
- 問注所……1184 年、鎌倉に設けられた、鎌倉幕府の訴訟・裁判処理を担当する機関。初代執事は公家出身の法律家三善康信。
- 守護……鎌倉・室町幕府における職名。各国に一人ずつ、主として東国出身の有力御家人が任命された。のちに規定されたその権限は、謀反人の逮捕、殺害人の逮捕、諸国の御家人に天皇・院の御所を警護させる京都大番役の催促という「大犯三箇条」^{おおはんやく だいぼんさんかじょう}のみに限られていた。しかし実際には守護は地方行政にも関与した。
- 地頭……守護と同様、御家人の中から任命されて、こちらは荘園・公領に置かれ、その職務は年貢の徴収と荘園領主への納入、土地の管理、治安維持などであった。地頭の勢力は、幕府権力の伸展とともに、自らの支配権の拡大に努め、荘園領主との間で紛争が増えていった。領主にとって、土地に根をおろした地頭を抑えることはできず、下地中分や地頭請^{したじちゅうぶん}という解決方法を取らざるを得なかった。前者は、地頭と領主が土地・住民を分け合ってお互い完全な支配権を認め合うことである。後者は、地頭に荘園の管理一切を任せ、一定額の年貢納入だけを請け負わせるというものである。
- 北条政子……1157～1225。後の初代執権北条時政の娘で源頼朝の妻。また、2代執権北条義時の姉。2代將軍源頼家、3代將軍源実朝の母であるが、頼朝の死後、北条氏一門とともに幕府政治を執り、「尼將軍」と呼ばれた。
- 源頼家……1182～1204。源頼朝の長男。2 代將軍。家督をついで間もなく北条氏によって勢力を失い、義父の比企能員^{ひきよしかず}と結んで北条氏討伐を企てたが失敗。『吾妻鏡』によれば、比企能員^{よしかず}と頼家の謀議が頼家の母北条政子に聞かれ露見して失敗したとされる。能員は殺され、頼

家は伊豆修禪寺に幽閉され、翌年殺された。1203年9月、幕府に仕える有力な武士達が、一斉に源頼家の館を襲った。2代将軍頼家は、武士達の領地を勝手に奪い、他の者に与えたり、土地を巡る武士同士の争いを不正に裁くという行ないが絶えなかった。土地をないがしろにする者は武家の棟梁としてふさわしくない。遂に怒りが爆発した武士達のクーデターによって、頼家は鎌倉から追放されて、伊豆修禪寺に幽閉されたのである。

- 源実朝……1192～1219。源頼朝の2男。3代将軍。北条氏の圧迫が強く、やがてその策謀で頼朝の子公暁に暗殺された。和歌に優れ、歌集に『金槐和歌集』がある。
- 第3代将軍就任から和田義盛の蜂起まで……1203年、頼朝の血をひく12歳の源実朝が第3代将軍となり、将軍を補佐する執権に祖父北条時政が就任した。1204年7月時政は刺客を放ち、伊豆に幽閉されていた頼家を殺害した。更に、実朝の命も狙わせたが、実朝の実母北条政子は父時政の館から実朝を救い出し、弟北条義時の館に匿った。鎌倉の武士団は実朝のいる義時の館に集結し、源氏への忠誠を示した。将軍殺しを企てた北条時政はその若い妻とともに伊豆に追放された。実朝が18歳の時に詠んだ和歌が、都の高名な歌人藤原定家に認められ、時の後鳥羽上皇の前でも披露され、歌人として注目を集めた。実朝は藤原定家らの『新古今和歌集』で民のために政を行なった古の朝廷政治を学んだ。1213年、実朝の側近であり、軍事を統括する侍所の別当和田義盛の軍勢が蜂起し、北条義時の館を襲ったが、義盛は幕府への反逆者とされ、鎌倉武士団に討ち取られた。北条義時は義盛に代わって侍所の別当になり、軍事権を掌握した。
- 朝廷からの勅命から実朝暗殺の前まで……和田義盛が滅ぼされて半年後、実朝のもとに、将軍の直轄領から税を徴収するという朝廷からの勅命が届いた。当時朝廷と土地の所有権を巡って対立していた鎌倉幕府の武士団は、北条義時などが猛然と反発したが、実朝は朝廷の納税命令を受け入れた。このあたりから、北条義時らの鎌倉武士団の実朝に対する不信感が増長した。更に実朝は和歌や学問の師として都から招いた公家の源仲章を幕府政治の中枢、政所(1184年設置の公文所が1190年に政所になった)に別当として送り込み、ここにおいて、鎌倉武士団の反発は頂点に達した。一方、朝廷は、2年の間に、実朝の官位を内大臣まで引き上げた。実朝のもとを側近の大江広元(もと公文所[政所]の別当)が訪れ、官位を上げ続ける実朝に武士達が反発していることを告げた。しかし実朝は「自分は体が弱く世継ぎもいない。自分の代で源氏の血の将軍は絶えるであろう。自分にできることは高い官位を得て、源氏の名を高めることだけなのである」と応えた。
- 源実朝の暗殺……1218年12月、実朝に右大臣に任じるという知らせが届いた。この知らせは、北条義時ら鎌倉武士に衝撃を与えた。「実朝はついに朝廷に取り込まれ、幕府の朝廷支配からの独立を無に返そうとしている。」1219年1月27日夕刻、右大臣就任を祝うために3代将軍源実朝は鶴岡八幡宮に参拝した。北条義時は太刀持ちを務めていたが急に気分が悪いと訴え出て、太刀持ちの役を実朝の側近源仲章に託し、館へと引き返した。夜8時、儀式が終わり、社殿を出た実朝は甥の公暁(頼朝の子)に暗殺された。『愚管抄』(慈円の歴史書)によれば、公暁は父頼家に代わって将軍となった実朝を敵と恨み、討ったとされている。公暁は暗殺直後に三浦義村

に手紙でその旨を知らせた。知らせを受け取った三浦義村は即座に2代執権北条義時に連絡を取り、義時は待つましたとばかり兵を公暁のもとにさしむけ、公暁を討ち取らせた。朝廷と深い関わりを持とうとした将軍実朝、朝廷との連絡役を務めた側近源仲章、そして源氏の直系公暁。実朝が朝廷と結びつくことを、なによりも恐れた北条義時と鎌倉武士団の敵は、ここに一人残らず姿を消した。

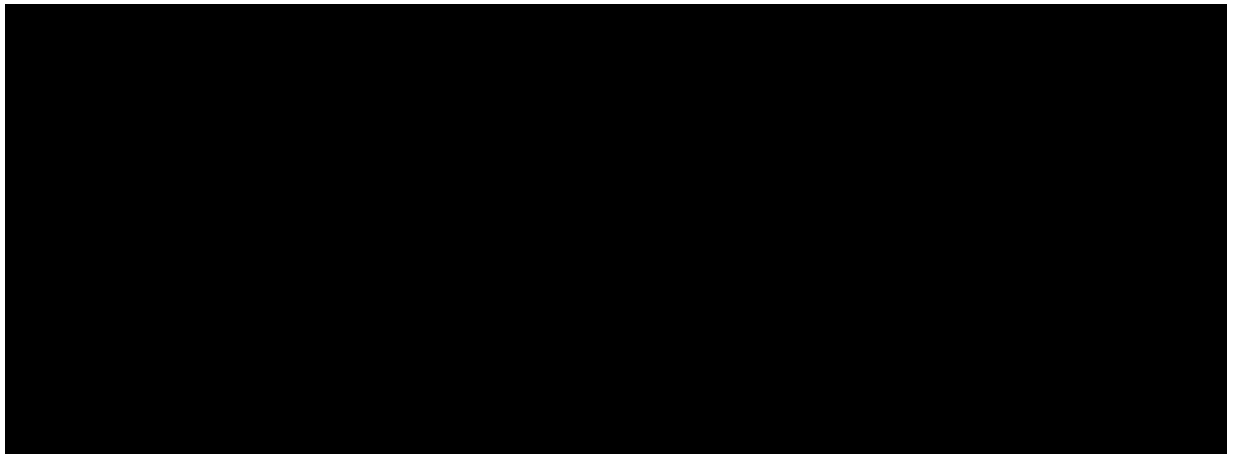
朝廷と北条氏の牛耳る鎌倉幕府の間で翻弄され、やがて謀略により命を落とした源実朝、その歌集『^{きんかい}金槐和歌集』において、次のように詠んでいる。

(道端で母を探して泣く幼い子供を見た実朝が、その子の両親が亡くなったばかりであることを知って)
いとほしや見るに涙もとどまらず 親もなき子の母をたづぬる

歌人実朝の優しい心根が垣間見える和歌である。

- ^{しつけん}執権……鎌倉幕府で将軍を補佐して幕政を統括する職で、**政所**の別当、**侍所**の別当を兼ねた北条氏の地位をさす。頼朝の死(1199 年)後、頼朝の妻北条政子の父である北条時政は、2代将軍の頼家^{よりいえ}を廃し、弟の**実朝**を立てて自ら幕府の実権を握った。この時政の地位は執権と呼ばれて、子の**義時**に継承された。その後、北条氏は幕政の主導権を握ると、執権は北条氏一族の間で世襲されるようになっていった。特に5代将軍以降の将軍は執権^{かいらい}の傀儡であり、ここでも上位の者に実権がなく、下位の者が実権を握るという権力の二重構造が見られる。

■北条氏系図



- ^{じょうきゅう}承久の乱……1221 年。^{ごとば}後鳥羽上皇の鎌倉幕府打倒の兵乱。北条政子は鎌倉の御家人の結束を説く大演説を行い、その弟の2代執権北条義時は子の**泰時**と弟の時房に軍を授けて上皇方を破った。その結果、後鳥羽上皇は隠岐に、後鳥羽上皇の皇子順徳上皇は佐渡に配流された。また、後鳥羽上皇の皇子土御門上皇は自ら進んで土佐に赴いた。上皇が処罰されるなど前代未聞のことであり、朝廷方の権威が著しく失墜した。さらに、幕府は上皇方についた貴族や武士の所領 3,000 余カ所を没収し、戦功のあった幕府の御家人らがその地に地頭として任命され、幕府の影響力が全国に及ぶようになった。承久の乱で上洛した北条時房・泰時はそのまま京都六波羅に留まり、朝廷の監視・京都の警護・西国御家人の統制にあたった。ここに幕府の朝廷に対する優位が確立した。

- 六波羅探題……1221 年の^{じょうきゅう}承久の乱に際し、幕府軍を率いて京都に攻め上った北条泰時、時房を乱後も京都に留め、朝廷の監視と尾張国(のち三河国)以西の御家人の統括にあたらせた役職。評定衆など幕府に準じた機構を持ち、北条一門から選定された。
- 連署……鎌倉幕府の職名。執権を補佐して政務を行う。3 代執権北条泰時が執権の時、1225 年叔父時房をこの職に補したのが始まり。連署の名は、幕府の公的な文書に執権と並んで署名することに由来する。副執権ともいうべきこの職は、以後北条一門の有力者が任命された。
- 評定衆……鎌倉・室町両幕府の職名。1225 年3代執権北条泰時が叔父時房を連署としたのち、裁判その他一般の政務を合議する職として創設。泰時の基本方針である合議体制による執権政治がいよいよ本格的に始動した。
- ^{ごせいばいしきもく}御成敗式目……1232 年、^{やすとき}北条泰時が定めた鎌倉幕府の根本法典 51 カ条。最初の武家法。成立年号をとって「^{じょうえいしきもく}貞永式目」ともいう。頼朝以来の先例や武家社会の慣習を基準とする。この式目は武士にのみ適用され、貴族社会における律令はこれまで通り有効であった。
- 引付衆……1249 年、5代執権北条時頼が評定衆の補佐と裁判の公平・迅速をはかるために新たに引付という訴訟機関を設置した。判決原案の作成等に加わった。
- 北条氏の他氏排斥
 - (1) ^{ひきよしかず}比企能員の乱……比企能員は2代将軍源頼家の妻の父であり、外戚として権勢を得たが、1203 年北条氏追討を計画し失敗して、頼家の長子一幡とともに時政に殺された。
 - (2) 和田合戦……1213 年、和田義盛が北条義時の謀略にかかって鎌倉で挙兵して敗死。以後、政所別当であった義時が侍所別当も兼ね、幕府政務の中心となった。
 - (3) ^{ほうじがっせん}宝治合戦……1247 年、5代執権北条時頼と三浦泰村(三浦義村の子)とが鎌倉で戦った合戦。時頼の外祖父安達景盛の陰謀で時頼と泰村が対立し、三浦一族が滅んだ。
- ^{とくそう}得宗(北条氏嫡流当主)専制政治の確立
 - (1) 2月騒動……1272 年 2 月に起きた北条氏一族の内紛。鎌倉幕府8代執権北条時宗は、異母兄で六波羅探題南方の地位にあった北条時輔^{ときすけ}が謀反を企てたため、これを討った。時輔が謀反を起こした原因は、時宗が得宗・執権となって権力の座に就いたことに対する不満にあった。これによって一族内の反対勢力がほぼ一掃され、時宗政権は安定化した。その一方、中心となって事件の処理にあたった^{あだちやすもり}安達泰盛(安達景盛の孫)は幕府内での実権をより強化させ、平頼綱ら御内人勢力との対立を深めた。
 - (2) 霜月騒動……1285 年 11 月、^{あだちやすもり}安達泰盛(安達景盛の孫)とその一族が滅亡した事件。9 代執権北条貞時^{さだとき}の外祖父泰盛^{やすもり}の勢力を恐れた内管領^{うちかんれい}平頼綱^{たいらよりつな}が讒言によって泰盛一族を討伐した。以後、内管領の専権が強まり、9代執権北条貞時時代に得宗専制支配が確立した。
 - (3) ^{へいぜんもん}平禅門の乱……1293 年に鎌倉で起った政変。北条氏の内管領である^{たいらよりつな}平頼綱は、執権北条貞時の乳母の夫としてその信任を得、権勢を振う。有力御家人^{あだちやすもり}安達泰盛と対立し、霜月騒動によってこれを倒したが、その後貞時に忌避され、襲われて自害した。
- ^{げんこう}元寇……「蒙古襲来」、「^{ときむね}文永・弘安の役」とも。鎌倉中期、8 代執権北条時宗の時にあった、2 度にわたるモンゴル軍の日本襲来。

- **文永の役**……フビライは度々国書を送ったが、日本への懷柔策に失敗したために、大船団による日本への侵攻(文永の役)を指示した。1274 年 10 月 5 日、1,000 人のモンゴル兵が対馬を襲撃、続いて壱岐を襲って残虐の限りを尽くした。10 月 20 日、900 隻もの軍船、合わせて2万 6,000 人ものモンゴルの兵士が博多湾に侵入した。日本の武士は3,000 騎で応酬。日本の一騎打ちに対して密集陣形を取るモンゴル軍の戦法や、火薬を詰めた新兵器てつほうにより日本の武士たちは退却を余儀なくされた。また、日本は 1272 年2月には、時宗の異母兄で六波羅探題南方の北条時輔を時宗が討つという2月騒動が起きており、幕府としてのまとまりもなかったことも苦戦の原因となった。幕府軍は死を覚悟し泣き笑いをしていたが、翌朝にはモンゴル軍は博多湾から撤退していた。モンゴルは自軍の無駄な血を流さないためにも、威嚇のために襲来したと考えられている。モンゴルはできれば戦わずして日本を属国にしたかった。残虐の限りを尽くして圧倒的な戦力の差を示すのが文永の役の時のモンゴル軍の目的であった。
- **文永の役以後の推移**……博多への来襲から4ヶ月後、フビライは再度日本に国書を送ってきた。時宗はモンゴルの使者を斬首し、博多湾沿岸に防塁を築いて防衛態勢を整備した。1279 年南宋を征服したモンゴルのフビライは日本攻略に向けて、南宋と、属国であった高麗に大量の船を建造させた。
- **弘安の役**……1281 年5月3日、モンゴルの東路軍4万が高麗から日本に向かって出撃した。6 月6日、遅れている江南軍の到着を待たずに博多に侵攻しようとしたが、石の防塁のために上陸に失敗した。また、小舟による日本軍の攻撃に苦戦した東路軍の船団は壱岐まで退却し、江南軍の到着を待った。その間、船内では疫病がはやり、船が腐り始め、食糧も尽きようとしていた。そんな中で、7月下旬、江南軍到着の知らせがあり、東路軍は平戸に向かって合流し、総兵力 14 万となった。ところが台風の子節であったために、1281 年7月 30 日夜、日本近海にいるモンゴルの船団を暴風雨が襲ってモンゴル軍の連合艦隊は壊滅状態になった。
- **弘安の役における暴風雨以外のモンゴル軍敗退の理由**
 - 1 上陸前に敵をたたくため、博多に 20 キロメートルにもおよぶ防塁を築いた。
 - 2 手柄をたてた者には武士・農民を問わず恩賞を与えることを約束し、日本軍は一致団結した。また、日本軍の士気も高かった。
 - 3 国を追われた中国人僧より、モンゴル軍日本襲撃の予定日に関する情報を得ていた。
 - 4 モンゴル軍は寄せ集めの軍であり、対立も多く、指揮系統が統一されていなかった。
 - 5 モンゴル軍は元寇防塁のために上陸できず、海での戦いは不得手であった。
- **元寇その後**……モンゴル軍との戦いの後、北条時宗^{ときむね}は無学祖元^{むがくそげん}を開山として円覚寺を建立した。この寺で時宗は日本側・モンゴル側を問わず、戦いで命を落とした人々の供養を願った。弘安の役から3年後の1284 年、モンゴルでの戦いで力を使い果たしたかのように、北条時宗は病に倒れ、34 歳の若さで世を去った。亡骸は円覚寺の境内に葬られている。
- **竹崎季長**^{たけざきすえなが}……1274 年、蒙古の大群が襲来した九州の博多湾で、戦場の様子を記録しようとした一人の武士がいた。九州熊本の武士竹崎季長であった。季長は4人の部下を引き連れて、わずか5騎で敵陣に突入、モンゴル軍に対して、一番がけを行った。ところが、一番がけに対して

恩賞がなかなかおりなかったのも、遠路鎌倉に向かい、鎌倉幕府に認めてもらうために御恩奉行^{あだちやすもり}安達泰盛と面会をした。「先例がないのは当たり前です。そもそも異国との合戦は、今回が初めてで、先例などあるわけがありません。先例がないという理由で、一番がけの手柄が認められないとしたら、我々は一体どのようにして、戦場で手柄をたてよとおっしゃるのか。私は恩賞がほしいと言っているわけではありません。一番がけの手柄を認めてもらいたいです。もし私が申す一番がけが嘘・偽りだとはっきりしたら、私の首をとって下さい。」「貴殿の申すことは承知した。一番がけの手柄は、たしかに將軍のお耳に入れよう。恩賞も間違いあるまい。」こうした御恩奉行^{あだちやすもり}安達泰盛との丁々発止のやりとりの末、やがて、手柄を認められて土地と馬をもらった。季長が恩賞を得たことは、各地の武士に、「がんばれば報いられる」という希望を与えた。2度目の蒙古襲来に備えて、時宗は防衛強化策を打ち出したが、武士達はそれに応じて防塁を築いた。また、高い士気をもって、モンゴル軍の上陸を許さず、波うち際で撃退することに成功した。さらに武士達は小舟に乗ってモンゴルの船を襲い、戦場で奮戦した。そして1ヶ月以上の間、モンゴル軍は日本近海をさまようことを余儀なくされ、嵐のなかでモンゴルの船団は壊滅した。その後、季長は、戦いに参加した自分の行動を「^{もうこしゅうらいえことば}蒙古襲来絵詞」という絵巻物に描かせた。この「^{もうこしゅうらいえことば}蒙古襲来絵詞」を読み解くことによって、^{たけざきすえなが}竹崎季長を通して、当時の武士の「御恩と奉公」という筋の通った生き方が見えてくる。

- ^{あだちやすもり}安達泰盛……8代執権^{ときむね}北条時宗が異母兄で六波羅探題南方の地位にあたる北条時輔を倒した 1272 年2月の2月騒動の時に、その中心となって事件の処理にあたって幕府内での実権を強化させた。その後御恩奉行となり、鎌倉へやってきた竹崎季長に恩賞を与える約束をした。1281 年の「弘安の役」の後も手柄があった武士に恩賞を与えることを主張したが、1285 年 11 月、9代執権北条貞時の時代に、内管領平頼綱の讒言によって滅ぼされた。即ち、幕府の派閥闘争に敗れ、殺されてしまった。これを霜月騒動という。安達泰盛の死後、幕府は武士達に恩賞を与えなかったが、幕府に尽くしても報われないと知った武士達は反感を強め、やがて鎌倉幕府は衰えていった。
- 永仁の徳政令……1297 年鎌倉幕府が出した徳政令。これは、御家人に売却した土地で売却後 20 年未満のものと、非御家人・庶民に売却した土地のすべてを無償で売り手の御家人のもとに返却させるというものであった。御家人の窮乏を救済する目的で発したが、逆に御家人が苦しむ結果となり、一部を残して撤回に追い込まれた。結局御家人は日に日に不満を募らせ、得宗が主導する幕府はそれを抑えるために一層専制的・高圧的になっていく。そのことがますます御家人たちの反発を招き、幕府の存在を動揺させる結果となった。
- 北条高時……1303～1333。14 代執権。田楽・闘犬にうつつをぬかし、政治は長崎高資に任せた。強い犬を輿にのせ、民に担がせ、人々は高時の犬にひれ伏さなければならなかった。一方、長崎高資は専横をほしいままにして、賄賂政治を行った。田楽や闘犬に興じるばかりの高時のもと、国の政治は乱れる一方で、役人の賄賂が横行し、重税が民を苦しめていた。
- 幕府滅亡……1318 年即位した^{後醍醐天皇}後醍醐天皇は幕府にも院政にも摂政・関白にも邪魔されることのない天皇親政を理想とした。この頃、鎌倉幕府は求心力を失い、^{後醍醐天皇}後醍醐天皇の親政は風雲急

を告げていた。後醍醐天皇の1回目の倒幕計画(正中の変)は1324年未然に発覚したが、側近が責任を取り、天皇は難を逃れた。さらに1331年にも挙兵を企てて失敗したため(元弘の変)、光厳天皇が幕府に推されて即位し、後醍醐天皇は1332年隠岐に流された。しかし、後醍醐天皇の皇子護良親王や楠木正成らは反幕府勢力を結集して蜂起し、幕府軍とねばり強く戦った。やがて天皇も隠岐を脱出し、天皇の呼びかけに応じて倒幕に立ち上がる者も次第に多くなった。幕府軍の指揮者として畿内に派遣された有力御家人足利高氏(のちの尊氏)は幕府に背いて六波羅探題を攻め破り、関東で挙兵した新田義貞も1333年鎌倉を攻め、得宗の14代執権北条高時以下を滅ぼし、ここに鎌倉幕府は滅亡した。

- 楠木正成……？ー1336。河内の土豪。商業・輸送の利権を握る民衆勢力を束ね、幕府の弾圧に対して武装して抵抗した。後醍醐天皇の下知に応じて、1331年、河内の山城である赤坂城で挙兵したが、500の軍勢は幕府軍数万騎に囲まれた。しかし、ゲリラ戦法で幕府軍に大損害を与え、うまく逃亡した。翌年、1332年には、農民5,000人を動員して無数のかがり火をたき、幕府の宇都宮軍を精神的にまいらせ、戦うことなく撤退させた。楠木正成の強さは流通業に携わる中で、各地の民衆とのネットワークの中心となり、農民・流通業者といった民衆を束ねることができたことにある。1333年、金剛山の千早城(河内、現在の大阪府)にたてこもった正成軍1,000人に対して幕府は80,000騎を送り、兵糧攻めにした。ところが正成軍の兵糧は尽きることがなかった。逆に幕府軍の兵糧の補給が滞り、兵が飢え出した。近隣の農民が正成に食糧を運び、幕府軍の補給部隊を襲い、兵糧を断っていたのであった。わずか1,000人の千早城を大軍をもってしても幕府は落とせない。それまで幕府を恐れていた土豪達は一斉に幕府の出先機関を攻撃し始めた。有力御家人であった足利高氏(のちの尊氏)も後醍醐天皇に感化され、京都の六波羅探題を攻め滅ぼした。そして、同じく御家人の武将新田義貞が1333年鎌倉を攻め、ついに北条高時は自殺し、後醍醐天皇は隠岐から京へと戻ったが、その名誉ある前陣には楠木正成の姿があった。湊川で楠木正成が討ち死にする3年前のことであった。

【15】 鎌倉時代の文化

- 興福寺天灯鬼像・竜灯鬼像……康弁の作であり、肩に灯籠をかつぐ天灯鬼と、首に竜を巻いて頭に灯籠をのせた竜灯鬼をユーモラスで力感溢れるように作られており、独特の味わいがある。
- 六波羅蜜寺空也上人像……六波羅蜜寺は京都市東山区にある真言宗の寺。963年空也の創建と伝える。空也は「市聖」といわれた、平安中期に浄土信仰を説いた民間布教僧。上人像は鎌倉時代の康勝(伝運慶の四男)の作で、口から南無阿弥陀仏を表す6体の阿弥陀仏を出している。右の写真。

弁の立つ鬼に勝つ空也



- 東大寺^{ちやうげん}重源上人坐像……鎌倉初期、東大寺再興に活躍した重源の肖像彫刻。木像彩色。運慶一派の作とされる。
- 似絵^{にせえ}……鎌倉時代に発達した大和絵の肖像画。実際の人物を写実的に描き、個性まで表現した。藤原隆信^{たかのぶ}・信実父子の名手があらわれ、隆信は伝源頼朝像^{のぶざね}(神護寺蔵)、信実は後鳥羽上皇像などを残した。(右の写真＝伝源頼朝像)



【16】 室町時代(南北朝時代含む)

- 建武の新政……「建武の中興」とも。鎌倉幕府滅亡後、1334年6月～1336年12月にかけて、後醍醐天皇が行った天皇親政の復古政治。新政権の基本はすべてを天皇の裁断とすることであり、土地の所有権の認定も天皇の出す命令書によるとした。しかしあまりにも急速に天皇への権限集中がはかられたため、殺到する恩賞請求や所領安堵の要求に対処できず、政権は信頼を失っていった。また、内裏造営のために増税を行い、社会慣行や前例を無視するような専制政治が行われたため、公家に比べて恩賞が少ないと不満を抱く武士を中心にますます政権に対する失望と不満が高まっていった。そして武家政権の再興を志すようになった源氏の棟梁^{あしかが}足利尊氏^{たかうじ}の離反により、わずか2年半で崩壊。
- 二条河原の落書……このごろ都にはやる物、夜討、強盗、謀略旨。
- 建武の新政後の楠木正成……後醍醐天皇の信任が厚くて、数々の実績を持っている楠木正成こそは民衆のリーダーだと目されていた。ところが、建武の新政に失望した民衆は心が正成から離れていきだした。1335年、ついに足利尊氏が反旗を翻し、鎌倉で挙兵し、京へと攻めのぼった。正成らはこれを迎撃し、凄絶な戦いのすえ、尊氏軍を打ち破った。しかし、その時、不思議な光景を目にした。味方の武将達が敗走する尊氏についていったのであった。「我が方の武士までが尊氏を慕っている」正成は涙ながらに後醍醐天皇に尊氏と和睦するように勧めたが、まわりの公家は嘲笑するだけであった。正成の忠告は受け入れられなかった。一時期九州へと逃れた足利尊氏は、30,000人以上の大軍勢となって、京をめざしてきた。正成は再び、後醍醐天皇から尊氏軍討伐を命じられ、自ら死地をめざすように、わずか700の軍勢で肅々と決戦の地である湊川へと向かった。1332年金剛山にたてこもった時には正成のもとにあれほど多くの地侍が集まったのに、1336年の湊川の戦いの時には勅命があるにもかかわらず、地侍は集まってこなかった。尊氏は圧倒的に有利であったにもかかわらず、なかなか総攻撃をかけなかった。尊氏は正成の命を助けたかったからである。しかし、ついに総攻撃をかけ、正成は命を落とした。「まことに賢才武略の勇士とも、かやうの者を申すべき。敵も味方も惜しまぬ人ぞなかりける」(梅松論)
- 南北朝動乱……1336年6月、尊氏は光厳上皇を奉じて入京し、光明天皇をたてて、11月には『建武式目』を制定し室町幕府を開いた。それに対し後醍醐天皇は、12月に京都を逃れて吉野の山中に籠り、正統の皇位にあることを主張した。それで、足利政権に擁立された持明院統の朝廷(北朝)と、吉野にある大覚寺統の朝廷(南朝)の、2つが並び立つ状態となった。その後、

56 年間にわたり、両統に連なる勢力は互いに争った。この時代を南北朝時代と呼ぶ。

- 1336 年……いざ去ろう僕は行くのだ、吉野の山へ ▼後醍醐天皇が京都を逃れた時に発した言葉
- 観応の擾乱^{じょうらん}……1350～52。足利尊氏と弟の足利直義^{ただよし}の抗争。最初に、尊氏の執事^{こうのもろなお}の高師直と尊氏の弟の足利直義の抗争で、直義が、高師直を殺害した。その後、尊氏と直義が戦い、尊氏は直義を毒殺。
- 観応の擾乱詳説(足利直義対高師直)^{じょうらん}……京都室町の政権において、最初足利尊氏は弟の足利直義^{ただよし}に政治を任せた。直義は光明天皇側のほうには如才なく気配りをするが、実際に戦って勝利する婆娑羅大名達には冷たかった。遂に土岐頼遠の「上皇の車へ矢を射かける」という事件が起き、尊氏に相談なく直義^{ただよし}は頼遠を処刑した。このへんから尊氏と直義^{ただよし}との関係がぎくしゃくしてくる。更に佐々木導誉をも京都から追放し、日頃から素行の悪かった執事高師直も執事の職をとかれた。しかし、その後、高師直が5万の兵を率いて足利尊氏の邸を取り囲み、御舎弟殿直義^{ただよし}が幕政から退くことを要求した。直義^{ただよし}は失脚し、尊氏の嫡子足利義詮^{よしあきら}が鎌倉から上洛して政務統括者となった。足利尊氏が中国地方に出陣した時に直義^{ただよし}はそれまで敵対していた南朝方へとついた。1351 年直義^{ただよし}は南朝の兵を引き連れて京都へ進撃した。尊氏は高師直、師泰兄弟の出家を条件に直義^{ただよし}と和睦した。高兄弟は護送中に直義^{ただよし}派の軍勢に襲われ、摂津で殺された。
- 観応の擾乱詳説(足利直義対足利尊氏)^{じょうらん}……北朝に戻った足利直義^{ただよし}は足利義詮^{よしあきら}の補佐として政務に復帰した。しかし、尊氏と直義^{ただよし}の溝は深まっていった。北朝に戻った直義^{ただよし}は後村上天皇を入京させるという約束を反古にしてしまった。そこで、尊氏は三種の神器を渡し、政権を返上することを条件に南朝方と和睦し、直義^{ただよし}・直冬追討の綸旨を得た。北陸で敗れた直義^{ただよし}軍は鎌倉へと逃走したが、直義^{ただよし}は鎌倉でも敗れて尊氏に幽閉された。尊氏は自分の味方につくように直義^{ただよし}を説得しようとしたが、功を奏さず、また、和睦の約束を破って南朝の北畠親房軍が鎌倉に迫ってきていたので、尊氏はなくなく直義^{ただよし}を毒殺した。

【21】江戸時代

- 坂本龍馬……1835～67。郷土出身の土佐藩士。1864 年長崎に海運・貿易のための結社海援隊を組織し、1866 年、薩長連合を斡旋。「桂さん、長州の意地がそんなに大事か？大事なのは日本じゃろが。」「西郷さんも薩摩か。今までたった一人で幕府と戦ってきて、禁門の変で薩摩にぎょうさん殺されて、今更くもうなどと言えない長州の桂さんの気持わかってやれや。じゃっどん、心の中では薩摩の援助が欲しくて欲しくてたまらんのがわからんかや。」と言って、西郷・桂を説得し、討幕の主力薩長連合を結成した。その後「船中八策」を起草。大政奉還・公議政体を唱えて活躍中、中岡慎太郎と共に京都で暗殺された。

【22】江戸時代の文化

(3) 化政文化

- 国学……江戸中期におこり、儒学・洋学に対して、日本古典を研究、日本固有の精神を明らか

にしようとした学問。▼(第1期)歌学革新運動と結びついた僧**契沖**らの『万葉集』研究に始まる。契沖の『**万葉代匠記**』における考証的・文献学的研究法は国学の学問的展開の糸口となった。▼(第2期)**荷田春満**が神道思想を加味して方法論を樹立し、**賀茂真淵**がそれを受けて実践。真淵は『万葉集』研究を通して、古代人の「明るく清く直き」精神に復帰すべきことを主張し、『**万葉考**』を著した。**本居宣長**は『古事記』研究に傾注し、『**古事記伝**』を著述。古典研究・思想体系の両面で真淵の思想を継承・大成させ、「もののあはれ」「真の心」を主張した。この頃から国学者は外来の儒仏思想を排するようになる。▼(第3期)**平田篤胤**は神道主義的性格を鮮明にして国粹主義を強調、「復古神道」を唱え、幕末の尊王攘夷運動や明治維新の思想的支柱となった。▼**荷田春満・賀茂真淵・本居宣長・平田篤胤**は「**国学四大人**」とよばれる。

- **本居宣長**……1730～1801。江戸中期の国学者。**国学四大人**の一人。伊勢松阪の人。**賀茂真淵**の影響を受ける。『**古事記伝**』によって、古代精神を究め、日本古典の意義を明らかにする一方、『**直毘霊**』を著して外来思想、特に儒教を排し、復古思想を説いて国学の思想的な基礎を固めた。「もののあはれ」論。清明正直。
- **平田篤胤の復古神道**……**尊王攘夷運動**の基本理論になった。
- **洋学[蘭学]**……洋学とは文字通り、西洋から入ってくる学問であるが、江戸時代後期には蘭学と呼ばれていた。洋学は徳川吉宗の命令でオランダ語の学習を命じられた**青木昆陽・野呂元丈**から始まると言われるが、人物としては元禄文化に属する**新井白石**が著わした『**西洋紀聞**』は洋学の性質を持つのでこの書物は化政文化に属する。
- **青木昆陽**……1698～1769。江戸中期の儒学者。蘭学の先駆者。1735 年『**蕃薯考**』を著し、將軍徳川吉宗に甘藷(サツマイモ)栽培の重要性を建白して採用され、「甘藷先生」と言われた。
- **解体新書**……1774 年に刊行された日本最初の翻訳西洋医学書。**前野良沢・杉田玄白**らがドイツ解剖書の蘭訳本『ターヘル＝アナトミア』を翻訳したもの。これにより蘭学の基礎が確立した。
- **前野良沢**……1723～1803。江戸中期の蘭方医。47 歳で蘭学を志し**青木昆陽**にオランダ語を学び、1770 年長崎に留学。**杉田玄白**らとともに訳本『**解体新書**』を完成させた。
- **杉田玄白**……1733～1817。江戸中期の蘭方医。蘭学の祖。**前野良沢**らに行ったオランダ語解剖書『ターヘル＝アナトミア』を翻訳した『**解体新書**』は日本近代医学の原点。翻訳の苦心を追想した『**蘭学事始**』は特に有名。
- **蘭学階梯**……**大槻玄沢**の代表的著作。蘭学入門書。オランダ語の文法書。
- **ハルマ和解**……**稲村三伯**の編集した蘭日辞書。
- **鳴滝塾**……**シーボルト**が 1824 年長崎郊外の鳴滝村に開いた医学塾兼診療所。医学・博物学の講義と診察を行い、門下から**高野長英**らの俊才を出す。

【25】 昭和時代

- **高橋是清(1)**……1904 年、政府の密命を受け、日露戦争の戦費調達のためにイギリスに渡り、得意の英語を駆使して日本への投資を呼びかけた。結果、当初の予定の約 13 倍、現在の4兆

5,000 億円に相当する外債の募集に成功した。日露戦争勝利の影の立役者になった。72 歳で政界を引退した高橋であったが、しかし、社会の激動は彼の時代を終わりにしなかった。時代は、是清に第2の人生の大きな舞台を用意していた。高橋是清は田中義一^{ぎいち}首相に蔵相として入閣を求められ、全国で取り付け騒ぎが起こる中で蔵相に就任した。高橋はモラトリアムを出すとともに、全国の銀行に3日間の一斉休業を指示、その3日間のあいだに大急ぎで小さめで2色刷り、肖像がなく裏が白い 200 円札を発行し、銀行の窓口に積み重ねさせ、取り付け騒ぎを収拾した。パニックを沈静化した是清は、直ちに次の仕事に取りかかった。金融安定化のために、公的資金を導入して銀行を立て直す法案を帝国議会に提出した。「思うに今日の事態は、実にわが財界未曾有の難局でありまして、これを救済するには朝野一致の努力をまつのはかないのであります。」「高橋という老船長が難破しかけた日本の舵取りに苦心努力している。この際は、高橋大蔵大臣の人格と手腕と徳望とに信頼して絶対に本案に賛成の意を表したい。」会期切れ 30 分前に法案は可決された。

- 浜口雄幸内閣……「ライオン宰相」として人気が高かった。蔵相井上準之助は金(輸出)解禁を行ったが、世界不況の経済とリンクし、昭和恐慌になった。

1930 年 ロンドン海軍軍縮条約→統帥権干犯問題

- 統帥権干犯問題の背景……民政党の浜口雄幸は対外協調(軍縮)、緊縮財政の方針を明白に打ち出し、首相として日本で初めてラジオ演説を行い、国民に理解を求めた。1930 年のロンドン海軍軍縮会議の際、海軍軍令部長の加藤寛治は、英米 10 に対して日本7を確保しなければ日本の国防に責任が持てない、と主張した。それを受けて日本側主席全権若槻礼次郎は粘って、6.975 までもっていき、それでもって調印した。それに対して日本国内では、野党政友会・軍部・枢密院は猛烈に反対した。統帥権は天皇にあるのに、軍に関することを政府が勝手に調印するのは、統帥権を干犯している、という主張であった。それに対して浜口雄幸は「自分が政権を失おうとも、民政党を失おうとも、また、自分の命を失おうとも、奪うべからざる批准への堅き決意なり」と言って、ついにロンドン海軍軍縮会議の決定通り、国会を通した。しかし、1930 年 11 月 14 日 8 時 57 分、東京駅で右翼青年に狙撃され重傷を負った。
- 政治家浜口雄幸の信念……狙撃されて9ヶ月で世を去る浜口だが、その9ヶ月の間総理として国民への約束を守ろうと懸命の努力をした。東京帝国大学病院で闘病生活を送っている時に病院の前に子供達が集まり整然と並んで手紙を読み上げた。「浜口総理早く良くなってください。」ライオン宰相の回復を願う手紙であった。普段は無表情で喜怒哀楽を現さない浜口であったが、この時ばかりは感涙にふけた。「政治は浜口唯一の趣味道楽であると人はいう。政治が趣味道楽であってたまものか。およそ政治ほど真剣なものはない。政治は命がけでやるものである。」「国民との約束は守らなくてはならない。」医者や家族の反対を押し切って、自分の責任を果たそうと国会に首相として出席した。
- 高橋是清 (2)……1929 年、ニューヨーク株式市場が大暴落し、世界恐慌におよび、日本も経済成長はマイナスを続け、失業者は増大し、昭和恐慌に突入していった。1931 年犬養毅首相から再び高橋に声がかかった。是清すでに 78 歳。彼は高齢と健康上の不安から返事に躊躇し

たが、国の窮状を憂い、国民を思う心から5度目の大蔵大臣に就任した。状況は厳しかった。都市部では失業者が増加し、恐慌は農村にまで波及し、借金苦から子女の身売りが相次いでいた。1932年の5・15事件の後、組閣した斎藤実内閣で高橋は日本で初めて赤字国債の発行にふみきった。1936年にケインズが「有効需要論」を発表する4年前にケインズ理論と同じことをした。即ち、公共事業など国の積極的支援によって、需要と雇用の創出をはかったのであった。その結果、1932年を境に経済成長はマイナスからプラスに転じ、失業率も減ってきた。

- **国際連盟脱退**……1933年2月の国際連盟総会で、リットン報告書をふまえて、「満州国不承認・日本軍撤退」を内容とする対日勧告案が賛成42反対1(日本)棄権1で採択され、日本代表松岡^{ようすけ}洋右は即座に抗議して退場、3月27日には連盟を脱退した。これは**斎藤実内閣**の時であった。
- **高橋是清(3)**……1934年、岡田内閣の懇願を受けて7度目の蔵相に就任した。軍事費膨張を最小限に抑えて財政を健全化させようと軍部と対立。1935年11月26日、翌年度の予算を決める閣議が総理官邸で始まっていた。是清は膨張する軍事費を抑えるために更なる軍事費の拡大を求める軍部の前に、国家財政の責任者として一人でたちはだかった。「大体軍部は常識に欠けている。その常識を欠いた幹部が政治にまで嘴を入れるというのは言語道断、国家の災いというべきである。」浜口雄幸、井上準之助、団琢磨、犬養毅と暗殺が続いており、軍人のサーベルの音がガチャガチャするだけで非軍人は怯えていた、そういう時代であった。当時の日本は軍部に対して真正面から発言することはとてもできない。そういう時代には是清はあえて軍部批判をした。刃が自分に向けられることを覚悟したうえでの演説であった。軍事国家傾斜への流れを何とかして止めようとした。政治家高橋是清は信念を貫いた人だったといえる。勇気ある決断と行動は、その一貫した信念からくるものであった。しかし、その3ヶ月後、1936年、是清は2・26事件の凶弾に倒れた。是清83歳の時であった。
- **ポツダム会談詳細**……病気で急死したルーズベルトのあとを受けたトルーマンには日本との戦争を終結させるための切り札が3つあった。「ソ連の対日参戦」「天皇制維持の約束を含む降伏勧告」「原爆投下」である。1945年7月17日夕方、アメリカ大統領トルーマン、イギリス首相チャーチル、ソビエト首相スターリンの間に会談が始まった。ポーランドの国境問題、ドイツからの賠償・戦利品に関しては強硬に自国の復興と利益を主張するスターリンの姿にトルーマンは失望した。日本の敗戦処理においても同様のことが起こるのであれば、「ソ連の対日参戦」はないほうがよいとまで考えた。そして、次第にポツダム宣言からソ連をはずす方向に動いていった。「天皇制維持の約束」は、対日強硬派のバーンズの反対で拒絶された。つまるところ、最後の切り札は「原爆投下」ということになった。そして、本国から原爆実験の成功の報が入り、それが強力な武器になる確証が得られた時、トルーマンは一言述べた。「今こそ日本に警告を発する時だ。」この原爆を使用して、ソ連抜きのアメリカ陣営に日本を降伏させようと考えた。一方、原爆の存在を知ったソ連は、日本の敗戦が近いことを悟り、戦後処理における自国の権利・主張を通すためにも日本の敗戦前に参戦しなければならないと考え、対日参戦を早めようと必死になっていた。

- **ポツダム宣言**……1945 年 7 月、アメリカ・イギリス・中国 3 国の名で日本に降伏を勧告したもの。正式には「**米・英・中三国宣言**」という。ソ連は対日参戦と同時に参加した。終戦の条件として、軍国主義の絶滅・領土制限・民主化促進などを列挙。日本政府(**鈴木貫太郎内閣**)は 1945 年 8 月 14 日これを受諾して無条件降伏。戦後、占領政策の基点となった。

【6】 2010 年度予想問題

[1] 次の設問を読んで、正解をそれぞれ下の語群①～⑤から1つ選び、解答欄に数字を記入しなさい。

(1) 710 年に藤原京から平城京に遷都した。今年が平城京遷都 1,300 年目にあたる。

- ①持統天皇 ②元正天皇 ③文武天皇 ④元明天皇 ⑤孝謙天皇

1	
---	--

(2) 1860 年に起こった事件。大老井伊直弼による安政の大獄という厳しい弾圧に憤激した水戸浪士らが、井伊をこの地で襲い、暗殺した。

- ①赤坂喰違の変 ②桜田門外の変 ③紀尾井坂の変 ④桜田門事件 ⑤虎ノ門事件

2	
---	--

(3) 1837年に起こった事件。天保の飢饉の際の、幕府に対する武力反乱。元与力であった人の反乱は幕府に衝撃を与えた。

- ①大塩の乱 ②天誅組の変 ③天狗党の乱 ④慶安の変 ⑤生麦事件

3	
---	--

(4) 1863 年に起こった事件。会津・薩摩両藩中心の公武合体派が、長州藩を中心とする尊王攘夷派を京都から追放した。

- ①禁門の変 ②蛸社の獄 ③宝暦事件 ④3・15 事件 ⑤8 月 18 日の政変

4	
---	--

(5) 1874 年に起こった事件。征韓論に敗れた前参議江藤新平らを擁した不平士族が武力反乱を起こしたが、政府軍のすばやい攻撃に屈した。

- ①敬神党の乱 ②三浦の乱 ③佐賀の乱 ④秋月の乱 ⑤応永の乱

5	
---	--

(6) 平安中期の随筆家。和漢の学才に優れ、一条天皇の皇后定子に仕えた。著作『枕草子』。

- ①紫式部 ②赤染衛門 ③清少納言 ④和泉式部 ⑤小野小町

6	
---	--

(7) 平安前期の歌人で、『古今和歌集』の撰者のひとり。この歌集の序文である「仮名序」は彼が著したもので、日本最古の歌論である。

- ①紀貫之 ②在原業平 ③小野篁 ④壬生忠岑 ⑤柿本人麻呂

7	
---	--

(8) 室町時代の能の大成者。能楽理論書として有名な『風姿花伝』を著した。

- ①観阿弥 ②世阿弥 ③能阿弥 ④音阿弥 ⑤相阿弥

8	
---	--

(9) 茶道の大成者。堺の豪商出身。草庵茶室と侘び茶を完成した。信長・秀吉に仕えたが、秀吉に自刃を命じられた。

- ①今井宗久 ②古田織部 ③武野紹鷗 ④村田珠光 ⑤千利休

9	
---	--

(10) 明治維新期の政治家。1867 年、大久保利通らと王政復古のクーデターを敢行し、維新政権の中心人物となった。使節団の代表として欧米各国を歴訪した。

- ①大隈重信 ②木戸孝允 ③岩倉具視 ④伊藤博文 ⑤山県有朋

10	
----	--

(11) 源氏の氏神というだけでなく、幕府の公的な祭祀の場として数々の行事に使われた。本宮への石段の左脇には源実朝を暗殺した公暁が隠れていたという大銀杏があった。

- ①鶴岡八幡宮 ②石清水八幡宮 ③宇佐神宮 ④神田明神 ⑤鹿島神宮

11	
----	--

(12) 1905 年5月 27 日から 28 日にかけて、この島の沖合で日本の連合艦隊とロシアのバルチック艦隊の海戦があり、日本側の完全勝利に終わった。

- ①平戸島 ②壱岐 ③佐渡島 ④対馬 ⑤隠岐諸島

12	
----	--

(13) 1808 年、イギリス船がオランダ船をとらえるためにここに侵入し、オランダ商館員をとらえ、薪水・食料などを強奪して退去した。

- ①平戸 ②浦賀 ③下田 ④神奈川 ⑤長崎

13	
----	--

(14) 鎌倉末期・南北朝時代の臨済宗の僧。西芳寺・天竜寺などに残る卓抜な造園技術は有名。

- ①絶海中津 ②蘭溪道隆 ③夢窓疎石 ④一山一寧 ⑤義堂周信

14	
----	--

(15) 日本最初の勅撰漢詩集。嵯峨天皇の命により、小野岑守らが撰進した。唐詩の影響が大きい。

- ①経国集 ②凌雲集 ③文華秀麗集 ④性霊集 ⑤千載集

15	
----	--

(16) 明治時代の啓蒙学者。『西国立志編』、『自由之理』を翻訳・刊行し、啓蒙思想の普及に貢献した。明六社同人。

- ①加藤弘之 ②森有礼 ③福沢諭吉 ④中村正直 ⑤植木枝盛

16	
----	--

(17) 866 年の応天門の火災を源信の犯行と主張したが、のち流罪となった。

- ①伴善男 ②源高明 ③橘逸勢 ④菅原道真 ⑤藤原薬子

17	
----	--

(18) わが国初の言文一致体小説『浮雲』を発表し、近代文学の先駆者となった。

- ①幸田露伴 ②夏目漱石 ③坪内逍遙 ④二葉亭四迷 ⑤樋口一葉

18	
----	--

(19) 朝鮮の独立、遼東半島の割譲、賠償金の支払い等を取り決めた条約の締結地。

- ①ワシントン ②下関 ③ロンドン ④パリ ⑤ポーツマス

19	
----	--

[2] 次のそれぞれの写真の名称をそれぞれ下の語群①～⑤から1つ選び、それぞれ数字を解答欄に記入しなさい。

(1)



(2)



(3)



(1)

①山水図屏風

②釣便図

③鮭

④海の幸

⑤不忍池図

名称	20	
----	----	--

(2)

①飛鳥大仏

②法隆寺救世観音像

③観心寺如意輪観音像

④法界寺阿弥陀如来像

⑤興福寺無着像

名称	21	
----	----	--

(3)

①高德院阿弥陀如来像

②東大寺戒壇院持国天像

③唐招提寺毘盧遮那仏

④東大寺執金剛神像

⑤元興寺薬師如来像

名称	22	
----	----	--

(4)



(5)



(6)



(4)

①法界寺阿弥陀堂

②法隆寺夢殿

③白水阿弥陀堂

④唐招提寺金堂

⑤蓮華王院本堂

名称	23	
----	----	--

(5)

①室生寺五重塔

②東寺五重塔

③備中国分寺寺五重塔

④興福寺五重塔

⑤羽黒山五重塔

名称	24	
----	----	--

(6)

①東大寺二月堂

②唐招提寺講堂

③西本願寺阿弥陀堂

④室生寺金堂

⑤浄瑠璃寺阿弥陀堂

名称	25	
----	----	--

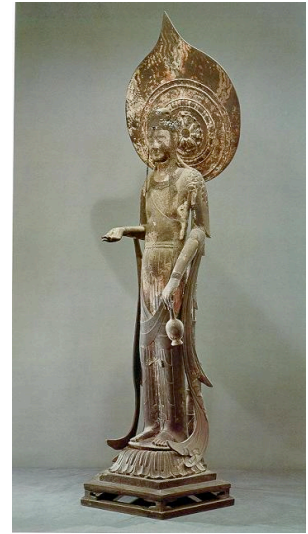
(7)



(8)



(9)



(7)

①虎図

②南蛮屏風

③彦根屏風

④龍虎図

⑤唐獅子図屏風

名称	26	
----	----	--

(8)

①銀薫炉

②法隆寺エンタシス

③漆胡瓶

④法隆寺玉虫厨子

⑤石山寺多宝塔

名称	27	
----	----	--

(9)

①法隆寺百済観音像

②法隆寺薬師如来像

③中宮寺弥勒菩薩像

④法華寺十一面観音像

⑤西大寺十二天像

名称	28	
----	----	--

(10)



(11)



(12)



(10)

①東大寺法華堂

②法隆寺講堂

③法隆寺伝法堂

④東大寺正倉院

⑤観心寺金堂

名称	29	
----	----	--

(11)

①東大寺戒壇院多聞天像

②東大寺戒壇院広目天像

③新薬師寺十二神将像

④聖林寺十一面観音像

⑤興福寺十大弟子像

名称	30	
----	----	--

(12)

①神護寺両界曼荼羅

②法隆寺金堂壁画

③西行物語絵巻

④高野山聖衆来迎図

⑤鑑真和上東征絵伝

名称	31	
----	----	--

(13)



(14)



(15)



(13)

- ①興福寺阿修羅像
④興福寺東金堂維摩像

- ②興福寺世親像
⑤円成寺大日如来像

③重源上人像

名称	32	
----	----	--

(14)

- ①興福寺天灯鬼像
④高野山明王院赤不動

- ②興福寺竜灯鬼像
⑤東大寺南大門金剛力士像 阿形

③明月院上杉重房像

名称	33	
----	----	--

(15)

- ①安楽寺八角三重塔
④瑠璃光寺五重塔

- ②興福寺三重塔
⑤醍醐寺五重塔

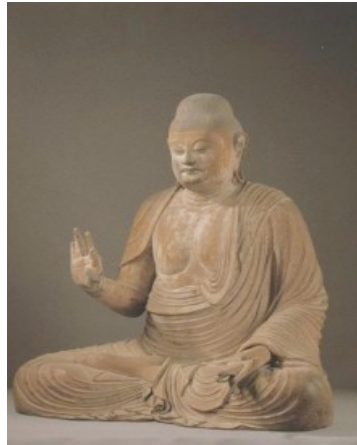
③薬師寺東塔

名称	34	
----	----	--

(16)



(17)



(18)



(16)

- ①神護寺薬師如来像
- ④神功皇后像

- ②新薬師寺薬師如来像
- ⑤東大寺僧形八幡神像

- ③薬師寺僧形八幡神像

名称	35	
----	----	--

(17)

- ①長谷寺十一面観音像
- ④六波羅蜜寺空也像

- ②東大寺地藏菩薩像
- ⑤東大寺戒壇院増長天像

- ③室生寺弥勒堂釈迦如来像

名称	36	
----	----	--

(18)

- ①春日権現験記
- ④東寺両界曼荼羅

- ②法然上人絵伝
- ⑤地獄草子

- ③餓鬼草子

名称	37	
----	----	--

(19)



(20)



(21)



(19)

- ①男衾三郎絵巻
- ④平治物語絵巻

- ②後三年合戦絵巻
- ⑤俵藤太絵巻

- ③蒙古襲来絵巻

名称	38	
----	----	--

(20)

- ①松鷹図
- ④花下游楽図屏風

- ②牡丹図
- ⑤松林図屏風

- ③大徳寺大仙院花鳥図

名称	39	
----	----	--

(21)

- ①粉河寺縁起絵巻
- ④源氏物語絵巻

- ②石山寺縁起絵巻
- ⑤伴大納言絵巻

- ③山王靈驗記絵巻

名称	40	
----	----	--

2010 年度予想問題解答

1 ④	2 ②	3 ①	4 ⑤	5 ③
6 ③	7 ①	8 ②	9 ⑤	10 ③
11 ①	12 ④	13 ⑤	14 ③	15 ②
16 ④	17 ①	18 ④	19 ②	20 ②
21 ①	22 ⑤	23 ③	24 ①	25 ④
26 ⑤	27 ④	28 ①	29 ④	30 ②
31 ④	32 ①	33 ⑤	34 ③	35 ⑤
36 ③	37 ④	38 ②	39 ③	40 ④